

弥生文化（時代）

弥生文化は九州地方の縄文文化晩期末の文化を基礎として朝鮮半島經由の大陸文化と中国南部方面より直接海を経て渡来した文化が融合して構成された文化である。朝鮮半島經由の文化は進歩した土器の製作技術と青銅製品、瓜、ひょうたん、麦、ぶどう、桃など栽培植物が伝来し、南方渡来の文化は新しい造船技術や製鉄技術、水稻などが伝来し、水稻耕作に必要な技術や農具もこれに伴って伝来した。またこれらの穀類の調理法や、調理に必要な土器の作り方なども伝播し、土器の器形にも縄文土器と違った大きな変化を示している。弥生時代の初期には、水田は平野の低湿地や周辺山麓の谷頭・湧水のあるところなど開墾の容易な地域にでき、そこが人々の生活の基盤をなし、中期になると鉄器の使用によって平野の荒れ地の開拓がなされ、高地が増加し、生産の拡大がもたらされ、後期にこの傾向はさらに進み至る所に大集落ができ、生活も大きく変革して定住生活を行うようになり、支配者が現れ、各地域に小さなクニが形成されていった。

高鷲では弥生文化を示す遺跡は発見されず、郡上市内でも発見されている弥生時代の遺物は極めて少ない。「白鳥町史」によると、郡上市内で弥生土器等を出土した遺跡には次のようなものがあると記している。

白鳥町では、二日町下田の下田遺跡から 2 個の弥生式土器発見、中津屋西ヶ洞からは 4 個の弥生式土器発見、白鳥神社西に水田から弥生式土器が発見されている。

大和町では、徳永の薬師平遺跡、剣の中矢田横道遺跡からは須恵器及び水神平式土器が発見された。

八幡町穀見遺跡からは弥生中期の土器の破片が、安久田からは弥生後期の土器の破片が出土している。

美並町からは弥生後期の土器と銅鏃が発見されている。

和良町からは、田平遺跡から弥生中期の土器の破片が発見され、明宝でも弥生中期の土器が発見されている。

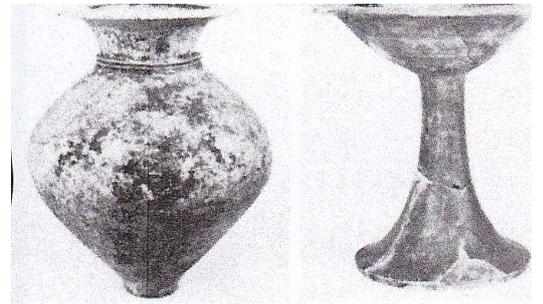
西日本から波及した弥生文化は、まず長良川下流地方に達し、木曾川下流三角州地帯、長良川右岸の沖積平野に多くの遺跡があり、関市には 15 箇所以上の弥生前期・中期の遺跡があり、郡上への弥生文化の流入は長良川をさかのぼったものと、飛騨川水系の馬瀬川や支流の和良川に沿ってさかのぼった 2 つの道が考えられる。

弥生文化時代の生活

弥生時代の初めに起こった農耕は、大陸から伝わり西日本に根を下ろした。農耕の初期には金属製の農具は極めて少なく、耕地の造成は容易なことではなく、人口も希薄で、耕地は出水・湧水のある土地、河川に近い湿地などの生産性の低い自然の湿潤地にほとんど限られていた。さらに、湿潤地における帯水・洪水による冠水など自然との闘いの中で進められたのであり、特に水温の低い郡上での水稻栽培は困難であったと推測される。

縄文時代の狩猟・採集の社会と違って、弥生前期の湿潤地栽培は、ここを一つの単位とした小集団の社会が生まれ、人々の生活も安定した。水稻農業、はた織り、金属器・木器・土器の製作など大陸文化の輸入は集団社会の発展に伴って、人々の仕事を分業化していった。しかし、郡上における弥生遺跡・遺物は極めて少ないので地域集団の所在や人々に生活の様子は分からない。

弥生時代後期になると人々は、土地の神、集団の祖先を祀るようになった。このことは各地に存在する祭祀遺跡に示されており、農耕の祭に用いたとされる銅鐸は県下で 5 口の出土をみている。また小国家の支配者を葬った墓とされる「方形周溝墓」は郡上地域にはない。



弥生式土器（見本）

古墳文化（時代）

弥生時代に続いて日本古代の統一国家の形成される時期を、古墳の造営が政治的背景によって行われたものとして、考古学上「古墳時代」と呼ぶ。古墳とは「土を高く盛った古代の墓」を意味し、山頂にそびえ立つ古墳、平地に大きな盛り土をする古墳、群を成す古墳、点在する古墳など多様で、その規模は全長 475m の前方後円墳から 15m 内外の円分に至まで様々である。

古墳時代はおよそ 4 世紀から 7 世紀後半に及び、その間を前期・後期に分ける。前期古墳は大和朝廷による支配を具現すると同時に、ムラ・クニなど共同体の祭祀を併せ持った首長への葬祭の場であるとし、後期古墳はその発生においては前期古墳と変わらないものの、祖先崇拜への考え方が変化し、強く「墓」という性格を持つようになった。さらに副葬品も特に須恵器・馬具の普及が拡大した。

郡上市の古墳分布は下図に示すとおりである。



(図説) 郡上の歴史より)

郡上には、美並町に 2 基、八幡町に 7 基、大和町に 12 基、白鳥町が 11 基の 32 基の古墳があるが、分布状況を見ると、長良川と支流牛道川、長良川と大間見・栗巣両支流、長良川と吉田・亀尾島両支流の各合流点に群を成している。この 3 箇所地域は、いずれも長良川と尾根道を結ぶ交通の要点にあたる。また、郡上市内の古墳の中で最も古いものは、6 世紀中頃のもので 6 基ある。このうち長良川左岸にあるのは、大和町薬師平古墳と白鳥町狭間古墳あり、左岸には大和町福田 1・2 号古墳、白鳥町釜山古墳と美並町の釜石古墳がある。高鷲、明宝、和良には古墳は分布していない。

弥生時代の後半には各地の多くのムラ、さらに集合体としてのクニができて、この首長達が手厚く葬られたことは鏡などの副葬品から分かる。2・3 世紀の墓は多少の盛り土はあっても大きな塚はない。4 世紀になると計画的に墓は大きくなり、塚という古墳が現れた。これが畿内から全国へ伝わっていく。この事は大和政権の勢力拡大と深いつながりがある。大和朝廷が皇位の世襲制を確立させ、貴族支配層の権威が巨大となり、その権威を表現するために壮大な古墳が造営された。また鏡・剣・玉・石製腕輪類などの副葬品など大和朝廷からの下賜品で、大和朝廷の権威の象徴であった。地方の古墳は地方首長の地位を外部に示す象徴であったと思われる。